

群馬・JA北群渋川初栽培へ講習

週末農業向け期待

【群馬・北群渋川】JA北群渋川営農経済部営農経済戦略室は4月上旬、遊休農地対策として導入した、短節間カボチャの栽培講習会を北部営農センターで開いた。JA管内で短節間カボチャを栽培するのは初めて。生産者9人が参加し、朝日アグリア(株)種苗部営業課の担当者の講演を聞いた。



栽培講習会で熱心に話を聞く参加者(群馬県渋川市で)

短節間カボチャ振興

短節間カボチャは、根張り強く、安定多収で株元にそろって着果するため、収穫が比較的容易なことから、週末農業に適した作物として期待されている。

栽培する品種は、果皮が濃緑で食味が強粉質な「栗のめぐみ1号」に決めた。

病害虫防除については、つる枯病の糸状菌が貯蔵時に横行してしまうと果実が腐敗してしまうため、農薬を使用し防除を推奨する予定だ。

JA営農経済部経営戦略室の中野晃宏さんは「朝日アグリアや県渋川地区指導センターと圃場(ほじょう)巡回などをしながら面積の拡大を目指したい」としている。今後は、整枝・摘芯のやり方を生産者の圃場で実演研修をする予定だ。